令和6年9月定例会 県土整備委員会（付託）

令和6年9月30日（月）

〔委員会の概要 危機管理部関係〕

梶原委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。（11時03分）

これより危機管理部関係の審査を行います。

危機管理部関係の付託議案については、さきの委員会において説明を聴取したところですが、この際、理事者側から報告事項があればこれを受けることにいたします。

【報告事項】

- 南海トラフ地震臨時情報に係るアンケート結果概要について（資料1-1、1-2）

勝間危機管理部長

この際、1点御報告申し上げたいと思います。

資料1-1を御覧いただければと思います。

南海トラフ地震臨時情報に係るアンケート結果概要についてでございます。

去る8月8日に発表されました南海トラフ地震臨時情報を受け、県民の皆様がどのような備えや行動をされたのかを把握して、今後の防災対策の参考とするとともに、改めて県民の皆様の防災意識を高め実践的な備えを行っていただくため、全県民を対象に実施したところでございます。その結果、約3,000件の回答を頂きましたので、その結果について御報告させていただきます。

まず、臨時情報に関しましては、今回の発表で初めて臨時情報を知ったという方が約6割となっております。臨時情報を受け行動を制限された方は約1割にとどまっております。地震の可能性が少しでも高まったなら臨時情報を出してほしいという方が約7割おられました。

次に、備えに関しましては、水・食料については約9割の方が備蓄されており、推奨しております3日以上の方も約7割おられました。

一方で、携帯・簡易トイレにつきましては、備蓄されている方が5割にとどまっております。

次ページになります。

その他自由記載に関しましては、351件の回答を頂いているところでございます。臨時情報につきましては、正しい知識を持つことが一番大事、啓発活動や防災訓練を密に行ってほしいという御意見を頂きました。

また、避難・備蓄に関しましては、備蓄を見直すきっかけとなった、情報発信に関しましては、その情報の発信される回数が多過ぎたことは問題など、幅広い御意見を頂いたところでございます。

今後は、このアンケート結果を踏まえ、臨時情報の発信をはじめ地震・津波対策につなげてまいります。

なお、アンケート結果の詳細につきましては、資料1-2を御参照いただければと存じ

ます。

報告事項は以上であります。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

梶原委員長

以上で報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

須見委員

今、部長より報告がありましたアンケートの結果について、県としてどのように受け止めているのか、改めて伺いたいと思います。

披田防災対策推進課長

ただいま須見委員から、今回のアンケート結果について、県としてどのように受け止めているかという御質問であったかと思えます。

今回、臨時情報を以前から知っていた方、今回の発表で初めて知った方を合わせると、ほぼ全ての方が臨時情報を知ることとなりましたが、今回、初めて知った方が約6割となっておりまして、臨時情報やその内容につきましてはまだまだ浸透していないのではないかと考えております。県民の皆様が関心が高まっている今を契機としまして、更なる啓発を続けていきたいと考えております。

また、発表された際、県では県民の皆様が日常生活を継続しながらも避難場所の確認や非常持ち出し袋の準備など、地震への備えの再確認を呼び掛けたところでありまして、アンケート結果におきましては、注意情報の発表時、行動制限された方が約1割にとどまったことは、県民の皆様が比較的冷静に御対応いただいた結果ではないかと考えてございます。

なお、自由意見といたしまして、臨時情報について正しい知識を持つことが大切であり、避難訓練等を通じて県民の防災意識の向上につなげてほしい、情報発信については的確な情報を最小限に発信すべきなど、様々な御意見を頂いたところでございます。

今後とも、県民の皆様が臨時情報の内容を正しく理解して適切な行動を取っていただきますよう啓発に努めるとともに、今回のアンケート結果を市町村とも共有いたしまして、今後の具体的な対策につなげていきたいと考えております。

須見委員

今回、初めての発信、臨時情報発表であったこともありまして、県民の皆様も非常に不安が大きかったのではないかと感じております。

県民の皆様が臨時情報の内容を正しく理解しまして、適切な行動が取れるように周知・啓発が大切だと思っておりますので、その点、しっかりと取り組んでいただきたいと思えます。

続きまして、備えについての部分であります。水、食料等については9割の方々が備

蓄しているという回答が出ている一方で、トイレのほうは5割、半分の方々が備蓄していないということでありました。

能登半島地震においても、トイレはかなり大きな問題となっております。本県でも、早急に備蓄の面においては対策を進めていかなければならないのではないかと考えるところでもあります。

どのように啓発に取り組んでいくのか、お聞きいたします。

披田防災対策推進課長

ただいま須見委員から、トイレの備蓄対策にどう取り組んでいくのかという御質問を頂きました。

災害時には、断水や停電、下水配管の損傷等によりまして、家庭でのトイレが使えなくなるおそれがございます。トイレは誰もが我慢できないものでございまして、前もって備蓄しておくことは非常に重要であると認識しております。

このため、自宅のトイレが使えない場合に備え、携帯トイレの備蓄をお願いしているところがございますが、今回のアンケート結果では、備蓄している方が5割にとどまっております。まだまだ県民の皆様にとってトイレの大切さであったり備蓄の必要性が十分に浸透していないのではないかと考えてございます。

このため、今後とも防災出前講座や防災フェスタなどのイベント、住民主体の避難所運営訓練をはじめとする実践的な防災訓練、ホームページやSNSなど、あらゆる機会を通じまして県民の皆様へ周知・啓発を行うことにより、家庭での携帯トイレ等の備蓄を促進するとともに、県としてこういった取組が効果的なのかといったところも検討するなど、市町村と連携して進めてまいりたいと考えております。

須見委員

大規模災害が起こる度にトイレの問題は出てくるわけでありまして、なかなか解決に至るといったところまではいってないのかなと思っております。

県としても、携帯トイレの備蓄についてはしっかり啓発して取り組んでいただきたいと思えます。

今回、このように県民にアンケートを取ったわけですから、このアンケートの結果をしっかりと市町村とも共有して連携しながら、今後、起こり得ます南海トラフ巨大地震に備えて、しっかりと様々な面でスピード感を持って啓発活動に取り組んでいただきたいと要望いたしまして、終わりたいと思えます。

大塚委員

予定には入れていなかったんですけど、一つは、今回の代表質問で重清議員から宍喰の津波が非常に早く来るということで、避難タワーの整備についていろいろ聞かれております。

その対応が出ていると思うんですけど、確認なのですが、避難タワーについては大体準備はできているんでしょうか。

披田防災対策推進課長

今回の本会議の答弁でもお答えさせていただいたのですが、避難タワーの御質問だったかと思います。

今回、避難困難地域の解消ということで、まだ避難タワーを建てる必要があるというところも残されてございます。

こういったところにつきまして、県のほうでも新たな策も検討しながら進めてまいりたいと考えてございます。

大塚委員

高知のほうではできていっているということなんですけれども、本当に10分以内かといいますと、実際に予定されている場所までは、例えば車で行って10分以内のところだと、車は使えないです。そういうことで、歩いて10分ぐらいの間に逃げないといけない。第1波の津波で亡くなる方が非常にたくさんおいでだと思うんです。

それを防ぐためにも、避難タワーが絶対必要だと思います。これは要望も入れて、是非、早めに備えるようにしていただきたいと思います。

次に、災害として能登半島地震があったんですけど、時間雨量100mmとか、非常に厳しい雨量がありまして、徳島県内においても雨が降る感じが非常に強いという。また、今も台風が近づいていますけれども、非常に心配するのは中小河川の氾濫^{はんらん}なのです。

阿波市でいいますと、ここ1か月くらい前ですけど、五明谷川という小河川があるんですけど、水がたくさん出たときに、山崩れとか洪水、いわゆる天災が非常に起こりやすいと思われるところがありまして、近隣の市議会議員の方と一緒に東部県土整備局吉野川庁舎に頼んで早急に対策をしていただくところが多々あると思うのです。

だから、そういう面で早めに、小河川が洪水を起こすことがあると、本当に人命に関わることがすぐ起こる可能性があります。

もう一つ、懸念がある池があるんですけど、別埜池という池についても前から心配がありまして、それが洪水であふれて人的被害が起こる可能性もある。私も近々、頼みに行つて対策をしようと思っています。

今、そういう中小、特に小河川についての対策はどのようにされていますか。

梶原委員長

小休します。（11時16分）

梶原委員長

再開します。（11時16分）

大塚委員

河川は違うということなんですけれども、全体的な洪水対策というのは入りますか。

（「河川です」と言う者あり）

では、ここではちょっと不適ということなので、これは置きたいと思います。

とにかくいろんな豪雨によっていろんな危険状態が起こると思いますので、できるだけ

そういうのに備えていただきたいということで、避難タワーについても、是非、早急にしていただきたいと要望しまして、終わりたいと思います。

沢本委員

この度、石川県で大雨によります甚大な被害が発生いたしまして、十日が過ぎました。

現在も行方不明になられている方の捜索が続いている状況ですけれども、改めまして、お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げるところでございますが、改めて、こういった複合災害の危険性、その怖さというのを痛感した次第でございます。

今日は質問としまして、代表質問でも取り上げた災害中間支援組織、徳島被災者支援プラットフォームについて質問させていただきます。

大規模災害時には、様々な民間団体の方が被災地へ支援に入って来られます。そういった方々の調整が大切になってくると思いますが、石川県ではどのような体制で民間団体との支援調整が行われているのか把握されていらっしゃるでしょうか。

それと、今年7月に県内で立ち上げられました災害中間支援組織、徳島被災者支援プラットフォームについて、何か動きがありましたら教えていただければと思います。

高木事前復興室長

ただいま御質問いただきました、石川県でこういった体制で民間団体との支援調整を行っているかでございます。

この度の石川県における大雨による災害におきましては、甚大な被害が発生したところでございまして、本県からは、先週26日木曜日、本日出席しております飯田次長をはじめ2名が、能登半島地震の対口支援先である輪島市に緊急支援物資を届けたところでございます。

また、こうした全国の自治体からの支援に加えまして、様々な民間支援団体が被災地に入りまして、支援活動を行っているという現地からお伺いしております。

石川県の体制なのですが、本県は7月に立ち上がりましてけれども、現時点で県レベルの災害中間支援組織がないことから、全国レベルで活動されている災害中間支援組織であります全国災害ボランティア支援団体ネットワーク、JVOADという団体がございます。そちらの団体が石川県庁に入りまして、石川県と連携を図りながら、県外からの支援団体との調整等を担っているという状況でございます。

もう1点、7月に立ち上がった災害中間支援組織、徳島被災者支援プラットフォームにつきましては、立ち上げ時から、先ほど申しましたJVOADと顔の見える関係ができていることから、この度の豪雨災害を受けまして、JVOADと調整して石川県庁でのJV OADの活動を補佐するというところで、昨日29日日曜日から10月2日水曜日までの間、プラットフォームから人員2名が派遣されたところでございます。

沢本委員

昨日から、JVOADの補佐的な担当で、徳島被災者支援プラットフォームから支援されているということでございますが、具体的にこういった役割を担われるのか、そのあた

りを教えていただきたいと思います。

高木事前復興室長

ただいま、石川県庁で具体的にどういった役割を担うのかという御質問でございます。

災害時における災害中間支援組織の役割といたしましては、行政や県内外のNPO団体などの民間ボランティア団体との情報共有や、県内外の民間ボランティア団体等との連携調整を行うこととなっております。

この度の石川県における大雨災害におきましても、石川県庁にて、先ほどのJVODがこうした役割を担っておりまして、被災地に支援に入っているNPO等の民間団体と連携して被災地のニーズを行政と共有するなど、連携調整を行っていると聞いております。

今回、徳島被災者支援プラットフォームも、JVODと共にこういった活動を行うこととなっております。

沢本委員

徳島被災者支援プラットフォームは立ち上がったばかりでございますが、こうした悲惨な災害が起こりまして、早速、石川県に入られて、経験も豊富な全国組織JVODと活動されているということで、心強い限りかなと思います。

今回の支援で得られた経験・知識、そのあたりは十分生かしていただいて、南海トラフ巨大地震に備えた準備をしっかりと進めていただきたいと思います。

梶原委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。

危機管理部関係の付託議案は、これを原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、危機管理部関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第15号

以上で危機管理部関係の審査を終わります。

次に、お諮りいたします。

委員長報告の文案はいかがいたしましょうか。

（「正副委員長一任」と言う者あり）

それでは、そのようにいたします。

次に、当委員会の閉会中継続調査事件についてお諮りいたします。

お手元の議事次第に記載の事件については閉会中に調査することとし、その旨議長に申し出たいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

これもちまして、県土整備委員会を閉会いたします。（11時25分）